

静岡県は石川嘉延知事の肝いりで、すべての施策の根底にユニバーサルデザインを置くことを目的として一昨年4月、企画部内にユニバーサルデザイン室を設置した。県が使用する公用封筒や一部の公共施設などにはすでにユニバーサルデザインが生かされている。昨年2月には「行動計画」がまとめられ、これにそって県政のさまざまな領域で、ユニバーサルデザインの取り組みが行われている。



いしかわ よしの●1940年生まれ。1964年東京大学法学部卒業後、自治省入省。国土庁官房審議官を経て、1991年自治省大臣官房審議官、1992年同省行政局公務員部長を歴任。1993年より現職

## ユニバーサルデザインを基本コンセプトとして公園、競技場、大学などの県営施設が誕生しています。

静岡県知事 **石川嘉延氏**

聞き手 梶本久夫(本誌編集・発行人)

### 幹部職員が車イスで庁舎点検を行う

行政組織内にユニバーサルデザイン室を設置したのは静岡県が最初ですが、それはどのような理由からですか。

石川 これまでの福祉行政には、障害のある人を特別視して、庇護や保護の対象とみなす考えが根底にありました。しかし、障害を抱えていても、自立した生活を志向する人たちは多いし、増えていきます。慈悲の心や憐憫の情だけで対応してもうまくいかない。受け入れ側の気持ちも考慮しなければなりません。個の自立を促し、それを支援することが大切です。「福祉のまちづくり」をいかにして広げていくかを模索していたときに出会った言葉が、「ユニバーサルデザイン」です。

ユニバーサルデザインはそれまで、建築物や日用品などの分野で具体化が進んでいましたが、行政があらゆる



ユニバーサルデザイン懇話会から提言書を受ける

る領域を包み込む大きなテーマとして取り組む事例はなかった。一昨年4月、全庁的な情報が集まる企画部内にユニバーサルデザイン室を設置したのは、県政のあらゆる分野にこの考えを広げていくためです。

県庁職員の反応や、ユニバーサルデザインの浸透の速度はいかがですか。

石川 本庁・出先の幹部職員が、身体の不自由な状態を疑似体験しながら、庁舎点検を実施しました。その結果、健康福祉部、土木部、都市住宅部はもとより、総務部、環境部、商工労働部、農林水産部など、ユニバーサルデザインの取り組みが全庁的に拡大し、職員の意識も徐々に変化していきました。ユニバーサルデザインは全体を覆う思想として位置づけており、昨年2月には、「ユニバーサルデザイン行動計画(期間5年)」を策定しました。ユニバーサルデザインのまちづくりは行政だけではできません。さまざまなセクターの方々とのコラボレーション(協働)が大切になる。現在行政が行っている事業のかなりの部分を、NPOをはじめとする公益的な活動をしている民間の団体や組織に委託していく方策を模索中です。これからの地域づくりは、行政と市民との協働が基本になるでしょう。

### 県の公用封筒にUDを取り入れる

ユニバーサルデザインの認知度アップには、効果的なPRが重要です。県民のユニバーサルデザインへの理解はこの2年でどの程度深まったと思われるか。

石川 一昨年8月から9月にかけて行った県政世論調査では、ユニバーサルデザインという言葉について、意味まで知っていた人は5%、言葉を聞いたことがある人は

26%でした。これをいかに高めていくか、また若い世代にどのように普及させていくかが大きな課題です。

昨年度は普及啓発のために、懇話会、講演会、シンポジウムの開催、インターネットのホームページの開設、パンフレットの作成、テレビ番組の放映などに力を注ぎました。その結果、小中学校や専門学校から、パンフレットを教材として活用したい旨の依頼や、グループ学習のテーマにユニバーサルデザインを取り上げた学校もあ



県からの文書が誰にでも認識しやすいように、封筒左下の県章を浮出し加工した公用封筒。税金・公金など金銭に関する通知に使用する封筒は、裏面の折り返し部分を波形に切込み加工している

ります。ホームページへのアクセスも1日平均60件。市町村や民間団体が自主的に行う研修会への講師派遣要請もかなり出ており、手応えを感じております。昨年4月から使いはじめたユニバーサルデザインの視点で作製した県の公用封筒は、マスクミヤ他県からの問い合わせも多く、このように目に見えるものが増え、いくことが広報活動につながると認識しています。

今年度は、市町村や民間団体に対する研修会、アイデアコンクール、研究委託事業を実施しました。

#### 市町村や民間の動きはいかがですか。

石川 浜松市が昨年4月、都市計画課内にユニバーサルデザイン室を設置したほか、韭山町では5月にユニバーサルデザイン研究会を立ち上げて、まちをあげて施設点検などに取り組み始めました。島田市は、高校生を対象としたユニバーサルデザインによるまちづくり講座を開催しています。

民間では、静岡市内のタクシー会社がユニバーサルタクシー(本誌04号参照)を導入、デパートでは「ユニバーサルデザイン関連商品展」を開催し、予想を上回る反応であったと聞いております。

### まちづくりのモデル計画を作成し 他市町村への普及を図る

ユニバーサルデザインのまちづくりを県内の市町村に広げていくために、どのような取り組みをなされていますか。

石川 ユニバーサルデザインは参加を基本としたデザインです。まちづくりにしても、そこで暮らす住民の方々と、企業や商店など事業者の方々の意見を聞くことから始まります。予算などのさまざまな制約のなかで、より使いやすく、暮らしやすい、快適なまちをめざして、知恵を出し合い、納得しながらまちづくりを進めていくことが重要です。ハードの整備に加えて、住民参加による施設の維持管理や情報交流など、まちの運営に住民や事業者が主体的かつ継続的にかかわっていくことにより、すべての人が生き生きと暮らすことができるまちづくりが進むものと認識しています。



三笠宮殿下との出会いが知事の福祉に対する意識を変えた

### アピリンピックの開催を見据えて 職業訓練校のUD化を構想

新観光システムへの整備に向けたさまざまなアプローチが行われており、「バリアフリー伊豆研究会」もその中の一つです。ここでは、各宿泊施設の責任者が参加し、ソフト、ハード両面から、訪問しやすい宿泊施設のあり方を模索し、実践しています。

知事はイベントの効果はかなり重要視されているとお聞きしていますが、ユニバーサルデザインの視点で、これから開催されるイベントの中で一つあげるとしたら何でしょうか。



ユニバーサルデザインの公園である「富士山こどもの国」を訪問



300席の車イス席を備えた静岡スタジアム「エコパ」



行政の事業の一部をアウトソーシングした公園づくり(グラウンドワーク三島)

ユニバーサルデザインを取り入れたまちづくり計画として、島田市の中央第三地区土地区画整理事業区域を中心とした地区(約47km<sup>2</sup>)をモデル地区の対象に設定しました。障害のある住民からのヒアリングの実施や、地区住民を対象とした講演会の開催など、ユニバーサルデザインとはどのようなものかを、行政と住民がいつしよになって、道路構造、ベンチ、誘導ブロック、公衆電話などを含めた歩行空間のあり方、案内表示などについて検討し、モデル計画を作成しました。県はこの計画をモデル計画として他市町村への普及を図り、島田市は当該地区の土地区画整理事業で具体化を進めます。

#### 県の公共施設をすべてユニバーサルデザイン仕様 にしていけるおつもりですか。

石川 県が率先して範を示していくことが大切です。公共建築物の設計基準には、「ハートビル法」や「福祉のまちづくり条例」がありますが、県(都市住宅部)ではそれに乗せした「ユニバーサルデザインに基づく公共建築物の企画設計の考え方」をまとめ、県の公共建築物に取り入れるとともに、インターネット上でも公開して普及に努めています。

施設をユニバーサルデザイン仕様にするのに加えて、その後の維持管理や、そこで行われる催事にもユニバーサルデザインを取り入れていくことが肝要です。また施設単体だけではなく、周辺のまちや、主な交通拠点からのアクセスなど、幅広い取り組みが必要になってくるでしょう。

### サッカーW杯の会場もUD仕様で建設中

ユニバーサルデザインの公共施設として代表的なものは何ですか。

石川 先般、2007年の第39回技能五輪国際大会が日本で開催されると決定しました。この大会は2年に1度、各大陸持ち回りで開かれます。日本での開催は1985年の第28回大会以来です。一昨年はカナダ、今年には韓国、2003年はアラブ首長国連邦、2005年は北欧諸国です。

静岡県が開催地として立候補するにあたって、技能五輪とアピリンピック(障害のある人の技能五輪)の同時開催を提案しました。この提案が受け入れられ、技能五輪は沼津市で、アピリンピックは静岡市での開催が内定しています。

アピリンピックの開催が決まって、職業訓練施設をア

石川 昨年4月に開学した静岡文化芸術大学は、建物や案内表示にユニバーサルデザインの考え方が取り入れられているとともに、ユニバーサルデザインの人材育成の拠点です。

もうじきできあがりですが、2002年のサッカー・ワールドカップの会場となる静岡スタジアム「エコパ」などの運動施設にも、ユニバーサルデザインの考えがさまざまなかたちで盛り込まれています。小笠山公園の中にあるこれらの運動施設は、2003年の国体と全国障害者スポーツ大会の主会場でもあります。

興味深いのは、建設工事現場の事務所のトイレもユニバーサルデザイン仕様であることです。車イスでも入ることができるトイレを設備した現場事務所は非常にめずらしい。

評判の施設なので多数の見学者が訪れます。その中には、高齢の人もいれば、若くても障害のある人もいます。それらの方々を考慮して、土木部の営繕工事業や建設会社の人たちが、自主的にユニバーサルデザイン仕様にしたわけです。

訪問可能性とか、訪問のしやすさとかに訳されているビジナビリティ(Visit-ability)という考え方がありますが、その現場事務所はまさにビジナビリティが実現されているといえますね。ホテルなどの民間施設もそうであれば、観光業の振興にもつながるのではないのでしょうか。

石川 昨年、伊豆半島全域において21世紀に向けて伊豆を活性化させるために「伊豆新世紀創造祭」を開催しました。

宿泊、情報、温泉文化、住民参加、交通、景観、バリアフリーの7つの分野で、民間研究会が中心になって、

クセスしやすいものにしてしようとの機運が生まれています。トイレが車イス対応になっているとか、段差がないとか、エレベーターがあるのは当然として、ソフトも含めて、障害のある人が自立するための支援施設の機能をも果たせるよう模索中です。

障害をもついても、肉体的にコンピュータを自由に使える人はいっぱいいます。障害の有無に関係なく、訓練生を受け入れるユニバーサルな職業訓練施設が出現してもおかしくはない。開催年までに、そのような施設を完成できればと思います。